

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2875400059		
法人名	洲本市		
事業所名	洲本市五色生活福祉センターたんぼぼ		
所在地	洲本市五色町都志大日707 (電話) 0799-33-1117		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年2月		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	7 人	常勤7人,	常勤換算6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	370 円	昼食	370 円
	夕食	370 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名	
要介護1	3名	要介護2	2名			
要介護3	0名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	89.2歳	最低	82歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五色診療所
---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧五色町の「健康の町」宣言に基づき設置された五色県民健康村の中心施設として健康福祉総合センターがあり、その一施設としてグループホームがある。2階建ての1階部分に、グループホーム(5人)とケアハウス(5人)があり、生活場面では一体的に運営されている。また、同一敷地内にある保健・医療・福祉の総合機能を活用できるのが、このグループホームの大きな特徴である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)	前回(平成19年)は第三者評価を受審していない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)	第三者評価の担当者が記入した自己評価票をもとに、他の職員がチェックする形で自己評価票を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)	運営推進会議の設置要領は作成しているが、運営推進会議は開催されておらず、今のところ開催は予定されていない。運営推進会議の趣旨及び設置基準を理解のうえ、サービスの質の確保を図るためにも早期の開催を期待したい。
	重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)	地域住民も参加している健康福祉総合センター全体の納涼祭への参加及び地域で開催される敬老会、高田屋嘉平祭等にもセンターの他施設の利用者とともに参加し、地域住民との交流を図っている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念は、利用者の支援のあり方が中心になっており、地域との連携を重視した理念にはなっていない。		地域密着型サービスの事業所として、地域に根ざした活動を展開していけるよう、地域密着型サービスの役割を考えながら、独自の理念を検討することが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング等会議のなかで、現在定められている理念の説明及び話し合いを行ない、理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民も参加している健康福祉総合センター全体の納涼祭への参加及び地域で開催される敬老会、高田屋嘉兵衛祭等にもセンターの他施設の利用者とともに参加し、地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の担当者が記入した自己評価票をもとに、他の職員がチェックする形で自己評価票を作成した。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の設置要領は作成しているが、運営推進会議は開催されておらず、今のところ開催は予定されていない。</p>		<p>運営推進会議の趣旨及び運営に関する基準を理解のうえ、サービスの質の確保を図るためにも早期の開催を期待したい。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホームは市の所管する健康福祉総合センターの一部であり、日常的に担当部署と緊密な連携をとっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に利用者の状況を報告しているが、その他の機会として、月1回程度、行事の報告・事務連絡・職員の異動を記載した「家族だより」を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回の家族との行事開催時及び月1回の利用に伴う経費支払いのための訪問時に、意見・苦情を聞くように努めている。また、市立のグループホームであるため担当部署には意見が届きやすい。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>市立のグループホームであるため、管理者には定期異動がある。また、一般職員にも少人数ながら定期の異動がある。異動に伴う利用者への影響に配慮して最小限の異動にとめている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>淡路3市ケアマネ連絡会主催の研修会に参加し、職員の育成に努めているが、それ以外の研修には参加できていない。</p>		<p>職員の質を高めるためにも、外部研修への参加と共に、より身近な場であるグループホーム内部での研修の充実が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護保険導入前には、他のグループホームと若干の交流があったが現在は行われていない。しかしながら、情報交換の機会を持ちたいとの思いはある。</p>		<p>他の事業所とのネットワークづくりは難しい面もあるが、質の向上を目的に情報交換など、他事業所と交流する機会づくりが望まれる。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に職員が家庭を訪れたり、グループホームを見学してもらったりして、場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と一緒に掃除や洗濯物たたみ、シーツ交換などをしながら、利用者から学んだり、共に過ごし支えあう関係に心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意志疎通が可能な利用者とは会話を通して、意志疎通が困難な利用者については家族からの情報をもとに、思いや意向の把握を行っている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族や利用者の意向を取り入れながら、ケアマネジャーを中心に介護計画を作成しており、作成後の目標に対する支援経過も随時検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>家族や利用者の意見を聞きながら6ヵ月に1回見直しを行っている。また、状況に変化があれば、その都度検討している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>健康福祉総合センターの事業所との連携はあるが、事業所の多機能性を活かした支援は実施できていない。</p>		<p>地域の在宅認知症の方の支援等、認知症ケアの専門性を活かした支援の導入など、ホームでできることから取り組みを始めることが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院となっている健康福祉総合センターの診療所に利用者全員が受診している。また、随時に往診してもらうなど、普段から緊密な連携が図られている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合（利用者が特殊入浴の対象、自力移動が不可能及び入院が必要な状態となった場合）は、転所（院）もありうるとの方針を家族、関係者で共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の人数が少ないこともあり、利用者と職員との関係が親密なため、言葉かけなどが粗雑にならないよう職員間で申し合わせている。また、記録等の個人情報については、漏洩することのないよう会議で徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>土・日以外の毎日、朝の体操の後、レクリエーションとして、ちぎり絵、歌、ぬり絵など思い思いのことをできるように支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食以外は、同一敷地内にある特養ホームで調理したものを喫食している。週1回は、利用者に食材の下処理や味付けなどを手伝ってもらいながら、職員と一緒に夕食を調理し、食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回の14時から16時の間となっている。入浴を拒む人には無理強いすることなく、本人の意向に沿った支援を心掛けている。		利用者の希望する時間での入浴など、個々の状況に応じて入浴を楽しむことができる支援の検討が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物(破れ物、タオル)、野菜の植え付け、花植えなど一人ひとりの体調や体力に応じた役割、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康福祉総合センター内の散歩やケアハウス入居者と一緒に買い物に出かけるなど、可能な限り戸外に外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はオープンにしているが、グループホームとケアハウスを隔てるドアには暗証番号式の鍵が日常的にかかっており、そこを通らないと玄関に行くことはできない。		建物の構造上の問題はあるが、鍵をかけることの弊害を理解し、引き続き関係者で鍵をかけないケアについて話し合いの機会を持つことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、夜間を想定した年2回の訓練(避難・通報・消火器具)を実施している。グループホームは健康総合福祉センターの一部のため、緊急時、特に夜間については、他施設の職員の応援が得られる体制となっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのチェックは敷地内にある特別養護老人ホームの栄養士が行なっている。また、食事摂取量はチェック表に記載して把握している。水分補給は、特に夜間については、ペットボトルを用意して各自で水を飲むような配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、ケアハウスと共用である。居間、台所、食堂がひとつになった共用空間は、日本庭園に面しており、また利用者がレクリエーションで作成した畳1枚分程のちぎり絵が飾られているなど、明るく落ち着いた空間づくりに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れたものやそれぞれの利用者の思い出となる写真、飾り物はほとんどない。		引き続き家族に働きかけ、利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらい、その人らしく過ごせる場所づくりを進めていくことが望まれる。

 は、重点項目。